

読んでスッキリ♪ いまさら聞けない？  
話題のニュースを学べるマガジン

ご参考資料 ピクテ投信投資顧問

# Bonjour

ボンジュール!!

2017年  
2月16日号  
Vol.344

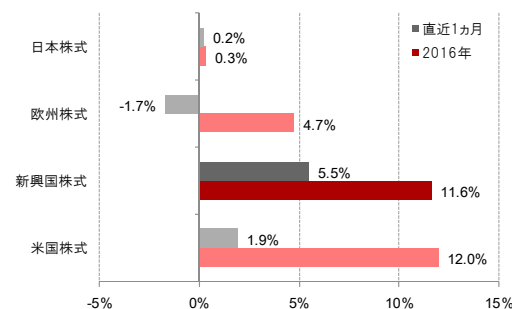


## 2016年、「勝ち組」だった！新興国株式市場

### ● 2016年、4年ぶりに先進国を上回る

実は2016年、新興国株式市場は2012年以来4年ぶりに先進国株式市場を上回るパフォーマンスでした。原油価格の回復や世界経済の底打ち・回復などがその背景です。好調な経済状況を背景に2016年、1年間で12%上昇した米国株式市場に対して、新興国は同程度に11.6%上昇するなど、2016年の「勝ち組」資産のひとつでした。

■ 株価騰落率（現地通貨ベース、期間：2016年：2015年12月末～2016年12月末、直近1ヵ月：2016年12月末～2017年1月末）



※米国株式：S&P500種指数、日本株式：TOPIX、欧州株式：ユーロストックス50指数、新興国株式：MSCI新興国株価指数株価、すべてトータルリターン  
出所：ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

### ● プラスとマイナスの材料を整理

「新興国市場にそろそろ投資してみてもいいかも！」と感じたら、今後のプラスとマイナスの材料を整理してみましょう。

#### 【主なプラスの材料】

##### ○世界経済の緩やかな回復

2017年1月に世界銀行が発表した経済見通し

によると、世界経済は2017年、2018年と緩やかに成長することが予想されています。

##### ○原油・商品価格の安定化

新興国には資源が豊富な国が多く、資源価格の動きが新興国経済に影響を与えます。石油輸出国機構(OPEC)と非OPECの減産合意で原油市場も落ち着きをみせ、産油国の株式市場にもプラスとなっています。

##### ○先進国と比較して相対的に割安な株価水準

2016年12月末時点の新興国株式の予想株価収益率(PER)は11.9倍、実績株価純資産倍率(PBR)は1.51倍と、先進国株式の予想PER(16.3倍)、実績PBR(2.24倍)を下回ります。

#### 【主なマイナスの材料】

##### ○トランプ米大統領の政策

トランプ氏はメキシコや中国などからの輸入製品に高い関税を課すと発言しています。両国は、米国への輸出の割合が高いため、悪影響を与える可能性もあります。

##### ○米国の金利上昇

米国の利上げによって、新興国市場から資金が引き揚げられる懸念もありますが、米国利上げの背景にある景気回復の恩恵を新興国経済や企業も受けるとも考えられます。

このように、今後の新興国にとって「いいこと」・「悪いこと」両方がありますが、冷静に情報を整理しながら臨みたいですね。

※MSCI 指数は、MSCI が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI に帰属します。またMSCI は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。